

JAPAN URBAN DESIGN  
INSTITUTE

都市環境デザイン会議

東京都文京区本郷2-35-10  
本郷潮川ビル 〒113-0033  
TELEPHONE 03-3812-6664  
FACSIMILE 03-3812-6828

JUDI

063

20.NOVEMBER  
2001

特集

「JUDI賞」関東ブロックの選考経過からみた都市デザインへの思い

発行者：都市環境デザイン会議 広報・出版委員会

●特集：「JUDI賞」関東ブロックの選考経過からみた都市デザインへの思い

1. アンケートによるJUDI賞空間候補の募集 ..... 1
2. 運営委員による推薦に切り換える..... 2
3. 推薦された都市空間と選考概要..... 3
4. 選考結果..... 5
5. 運営上の問題点..... 6
6. 当時の推薦文..... 6

●研修研究委員会より.....22

●事務局より.....23

## 特集：「JUDI賞」 関東ブロックの選考経過からみた都市デザインへの思い

都市環境デザイン会議 10周年記念事業として設けられたJUDI賞の選考過程や大賞、優秀賞については、JUDI 58号に詳しく紹介されているが、本号で改めて、関東ブロックの選考経過（関東ブロックでは、大賞候補を含め11点を推薦した。）とその過程で議論した内容を紹介する。選考の過程で議論した内容を記録し、紹介することが、我々の都市デザインに対する姿勢やこれから目指すべき方向を考える上で大いに役に立つも

のと考えたからであり、また、58号では十分に紹介できなかったものも含め、関東ブロックが推薦した各事例を会員に広く紹介する場を設けたかったからである。

次回、次々回のJUDI賞選考の過程で行われるであろう議論と対比することができたら、経済社会環境の変化に伴う、都市デザインに対する我々の思いの違いが明確になるはずである。（担当：澤木 俊岡）

### アンケートによる JUDI賞候補空間の募集

中井川 正道  
NAKAIGAWA MASAMICHI

JUDI賞選考委員会委員

㈱GK設計

関東ブロックでは、10周年記念事業およびJUDI賞開催主旨を記載した案内状の送付に合わせ、約250名のブロック会員に、JUDI賞に推奨いただく都市空間についてのアンケート用紙を配布した。結果は、3名の方からの返信のみで1.2%という超低回答率となった。また、この件について質問をお寄せいただいた方も1名のみで、会員の参加意識の低さを露呈した。通常の視察会やシンポジウムなどにおいても、ときどき同様のことがある。関東ブロックの悩みの一つが、またもここに現れてしまったようである。

アンケートは、会員それぞれが良いと思う都市空間（全体）、あるいは都市空間内の限られた場所（部分）を推薦いただき、その理由を簡単に記入するという内容である。アンケートにお答えいただいた3人の方々からは、5ヶ所の推薦があった。（表

－1）推薦された都市空間には、会員自ら計画や設計を手掛けたオペラシティ（東京、第二国立劇場を含むブロック）、幕張ベイタウン（千葉市）、MM21ポートサイド地区（横浜市）の3箇所、近代都市開発の成果の一つとしての田園調布、最近の自然環境保全運動の図師小野路（東京都）である。図師小野路以外は比較的有名な都市空間事例の推薦結果となった。

唯一のお問い合わせの内容は、賞の主旨を十分に理解していないことを前提に、「賞の創設目的には、我々会員自身が評価を受けることも含まれるべき」という考えから、「できるだけ会員が身近にたずさわったものを取り上げることが必要ではないか」といった主旨の意見をいただいている。アンケートには参考として、代表的な都市空間事例を掲載しておいた。

アンケートによって推薦された都市空間（表－１）

関東ブロックエリアー茨城県、栃木県、群馬県、千葉県、埼玉県、山梨県、長野県、神奈川県、東京都

都市	推薦理由
・田園調布 (東京都)	・ 20世紀を代表する都市開発・その後の住民自治による環境維持 ・ 先駆的な地区計画・協定の導入・住民の活発なコミュニティ活動
・オペラシティ (東京都)	・ 計画制度、事業制度の巧みな活用とこれらによる魅力的な都市空間づくり ・ 公民協力 ・ 20世紀型のパワーシティではなく、21世紀型の文化空間づくり
・ 図師小野路 環境保全地域 (東京都)	・ 昔からの手法で、住民の努力により里山の風景を取り戻した事例 (町田市の北部、図師町および小野路町にまたがる地域) (かつての多摩丘陵の自然がそのまま残っている。) (地域住民が管理組合を組織し環境保全を行っている。)
・ 幕張 ベイタウン (千葉市)	・ 都市計画、環境デザイナー、建築等、専門家のコラボレーションによる新しい町づくり
・ MM21 ポートサイド 地区 (横浜市)	・ 日本を代表するウォーターフロント開発

アンケート及び運営委員によって推薦された都市空間（表－２）

運営委員による推薦に切り換える

都市	足利市、栃木市（栃木県）松本市、小布施町、軽井沢町（長野県）、佐原市（千葉県）川越市（埼玉県）、日立市（茨城県）
開発都市	つくば学園都市、湘南国際村、MM21ポートサイド地区、みなみのシティ、YBP（横浜ビジネスパーク）、オペラシティ、新宿副都心、幕張新都心、さいたま新都心、天王州アイル、多摩ニュータウン南大沢・永山、恵比寿ガーデンプレイス、吉祥寺北口再開発、
エリア	谷中、神宮の森、浅草、皇居、同潤会アパート、銀座、大井野鳥の森、田園調布、山手・関内、渋谷ビットバレー、新宿南口、水戸市千波公園 図師小野路環境保全地域、代官山ヒルサイドテラス、浜田山タウンセンター
事業等（出版、運動）	株式会社INAX「ESPLANADE」 鎌倉「ナショナルトラスト」 株式会社建築資料研究社「造形」 荒川汽船「荒川の船運」 株式会社コトブキ「VIEW」 日本興業株式会社「PURE」

我々は、アンケート結果をJUDI賞へ、そのまま応募しようとしたが、もう少し運営委員が推薦できる都市空間を集め、アンケート結果と合わせて推薦することを考えた。その主な理由は以下の通りである。

・ 5ヶ所3名からの推薦のみでは、関東ブロック会員の総意とはならない。

・ 都市の一地域では、大賞を狙える規模ではないのではないか。  
・ 全国的知名度が必要ではないか。  
・ 土木系やランドスケープ系の推薦がない。  
・ あまり計画的な都市空間ではなく、時間的経過の中で自然に良い都市空間が醸成された事例がない。

## 推薦された都市空間と選考概要

### ■歴史的資産を活かしたまちづくり

都市単位で推薦された町は、日立市と軽井沢町を除けば、県庁所在地ではなく、なぜか県庁を競いあったライバル都市であったり、独自の経済や文化を育んだ歴史を持つ町が推薦された。それらの町は水上や陸上交通の要衝にあり、交易によって富が蓄積され、蔵や運河、寺社や学校など多くの歴史的資産が残されている。これらの都市は関東ブロックでも注目し、視察会を積極的に実施してきた場所である。実際に町を視察し、「まちづくり」の様子を伺うと、まちづくりプロセスに共通の進展パターンを認識することができる。最初の「まちづくり」のきっかけは、行政からの働きかけによるものが多く、街路整備事業などのハード整備が主体となっている。そして、そのハード整備をきっかけに、住民自らが所有する建物の整備、再利用などへと進展する。次は、行政と市民が協力し、一つの道路（線）と建物（点）が結びつき地区（面）のまちづくりへと発展していくというパターンである。このようなまちづくりパターンの進み具合や、市民の意気込み、全国的知名度などを考慮すると、栃木市や川越市を抑えて、小布施町が有力候補となった。さらに、小布施町は歴史的資産の活用に加えて、パークアンドライドの導入にトライしたりなど、新しいまちづくりの段階に入っていることなどが推薦を確定する要因となった。

委員の中には、他ブロックとのJUDI大賞争いに際し、同じ歴史的資産を利用したまちづくりにおいては、関西方面の歴史的都市と比べ、質や量において勝てないのではという意見があった。この点について再考をしたが、対抗できる町が関東には見当たらなかった。

日立市は、市の中心部の鉾石輸送ヤード跡地を市民の広場として開放したものを中心としたまちづくりが推薦対象である。当時、新都市拠点事業は、同市と神戸市、下関市の3カ所で、最初に完成したのが日立市であることを考えると推薦の価値があった。しかし、後述する開発都市に比べて規模や知名度がいま一つと判断された。また、軽井沢町は、別荘地、リゾート地として発展した特殊な例であることを理由に今回は

見送った。

### ■開発都市＝パワーシティ

開発都市の話題にのぼった場所は東京都、横浜市、千葉市の湾岸地区で、埋立地につくられた大規模な開発都市である。会議では、都市の歴史的変遷がなく大金を投資し、0から100をつくってしまうような、ある意味強引とも思える都市をパワーシティと呼びあっていた。

推薦された街は、〇〇都市や〇〇都心と名がついてはいるが、住宅中心、オフィス中心、コンベンションが中心と既存の都市のような総合的な街ではなく、断片的な街である。20世紀後半のこうした開発都市は、断片的ではあっても総合的な街づくりを目標に様々な努力を積み重ねてきている。総合的なまちづくりを目指すに当たって重要なのは、建築技術よりも道路や公園など都市施設を含めた都市環境全体のデザインビジョンでありプロセスである。我々の議論の中でもこの点を評価し、21世紀につなげる都市環境デザインの足がかりとすべきであるという議論があった。その点からいくと、幕張新都心の住宅地区（ペイタウン）と多摩ニュータウンの南大沢地区が都市環境デザインプロセスにおいてデザイン調整会議を組織したり、マスターアーキテクトを立て、デザインを決定していることから推薦すべき対象となった。両者のうち、賑わいを生み出そうと建物の配置を沿道型にして、少しでも街の総合的完成度を求めた幕張ペイタウンを最終的に推薦している。

幕張ペイタウンは、皆さんもよくご存じのように、賑わいを創出するために低層部に商業、業務施設を配置し、セットバックではなくセットフォアードを行い、道路空間との一体化など一歩進んだまちづくりを行っている。その都市環境デザインプロセスは、デザイン調整会議やデザインワークショップなどでブロック設計者を指導するかたちをとっている。そこでは明確なルールでコントロールするのではなく話し合いを元に決定し、複数の設計者が競作するというプロセスによって、複雑でレベルの高い都市の様相を創造することに力をいれている。

## ■エリア一見えない業績

初詣に参拝する人の数が日本一の明治神宮、その神宮を取り囲む森はあまりにも自然に見え、人工の森であることを知ることは難しい。今回は、このことを知っている運営委員の助言によって、会員の皆さんに普段では知ることの出来ない「見えない業績」を紹介することができた。明治神宮の森は、大正4年に造営が決定されている。その当時は、土地のほとんどが草原か田畑であった。そこを明治天皇の神苑とすることを目的に計画が行われた。計画は、当時の最高技術を結集して100年後の自然の森（いわゆる雑木林）を想定した壮大な計画がたてられた。これに対して、大隈重信首相が「神宮の森を藪にするのか、藪はよろしくない、当然杉林にするべきだ」として伊勢神宮や日光東照宮の杉並木のような雄大で荘厳なものを望んだが、当時の林苑関係者は断固として首相の意見に首を振ったそうである。理由は、谷地の湿気が多いところでこそ杉は育つが、関東ローム層の代々木には不向き、という極めて専門的的信念からである。このエピソードが示すように、プロフェッショナルな知識と経験を兼ね備えた都市環境デザインは、我々が目指すべき一つの手本として大いに見習うべきものがある。また、緑系の推薦都市空間がないことから応募することとなった。

## ■建築家による街づくり

一人の建築家が中心となって係わる街づくりとして「代官山ヒルサイドテラス」と「小布施町」の2つが挙げられる。代官山ヒルサイドテラスは槇文彦氏、小布施町は宮本忠長氏である。小布施町は既に選出されているので、ここでは選考経緯を省略する。

代官山ヒルサイドテラスは、一人の建築家が25年の歳月をかけ、大きな敷地を6期に分けて建物をつくり、街としての景観形成を図っている点が優れている。我々は建築家に対し、日頃良くない印象を持っている。それは、一部を除く大半の建築家は、一つの敷地に対し周辺のコンテキストとを無視した建物をつくっているように感じるからである。このような偏見の見方を見事

に裏切ったのが槇文彦氏である。小布施町のように歴史的なコンテキストが明瞭に存在する場合は違い、むしろ槇氏の思想性によって周辺にあった新たなコンテキストを定着させるという、難しいデザイン行為をやり遂げている。今後、このような手法によってレベルの高い街並みが形成されることは少ないと思われるので、これを機会に推薦した。

## ■都市デザイン室の成果

推薦された都市空間の中には、YBP（横浜ビジネスパーク）、MM21ポートサイド地区、山手・関内地区など横浜市に関するものが多くあった。横浜市は日本で初めて都市デザイン室を組織した先進的自治体である。都市デザイン室の主な仕事は、良好な歩行者空間の創出、壁面後退などの建築指導、歴史的資産の保存、再生、景観保全、デザインプロデュースなどである。皆さんもよくご存じのくすのき広場、開港広場、イセザキモール、大通り公園、横浜港色彩計画から、最近の赤レンガパークまで、質、量共に都市環境デザインに貢献した度合いは計り知れない。また、他の自治体に与えた影響も大きく、現在では同様の役割を担う部署が存在する自治体が多い。さらに、「デザイン」という言葉を行政内部に定着したことは表彰に値する。以上のことから個々のエリアとして横浜市の部分を推薦するというのではなく都市デザイン行政全体を推薦することになった。横浜市のデザイン行政には、今後も大いに期待したいところである。

## ■学生中心に始まったユニークなまちづくり活動

谷中界隈を愛する人たちが集まって、平成元年に「谷中学校」が設立された。地元の良さを発見する調査や廃業のお風呂屋さんなどをギャラリーに利用するなど、自分たちのできることからまちづくりを始めている。メンバーの専門性を活かしながらの地道な活動は、住民の理解を得て地元根ざり出している。通常の行政主導型のまちづくりとは違ったプロセスで、大きな成果をあげている。このまちづくり組織「谷中学



校」は、全国的にみてもユニークなまちづくりの実践隊であることから、是非推薦をすべきであるという声があがった。

## ■その他

「浜田山タウンセンター」は、通常の役所や大企業主導型の住宅開発とは違って、一人の地主と、複数の専門家が集まったプロジェクトチームが知恵を出し合って開発した。プロジェクトチームが計画し、ディベロッパーを探すという開発プロセスには、様々なアーバンデザインの要素が盛り込まれ、かつ完成した建物は今日に至っても低層集合住宅の参考事例として取り上げられている。浜田山タウンセンターは会員からの強い推薦があった唯一のものであること、現在盛んに行われているコラボレーションの先駆としても推薦に値する判断した。

「荒川の船運」は、一人の情熱から法的しほりなどの困難を乗り越え就航に成功した事例で、水上交通の見直しや可能性を示唆してくれている。なによりも、人間の情熱

が世の中を動かす好例として、皆に勇気を与えてくれることに共鳴する気持ちで推薦した。

その他、新しい自然保護運動として注目した「図師小野路環境保全地域」であるが、残念ながら推薦には至らなかった。図師小野路環境保全地域は、東京都が1972年に制定した「東京における自然の保護と回復に関する条例」の全面改正によって開発規制の強化、緑地基準の向上などがはかられた流れを受けて、住民たちが自ら管理組合を結成し、開発前の谷戸田や里山風景を復元、管理する活動が行われている。従来の大規模な自然保全とは違い、住まいの周辺にある身近な自然環境を保全するという活動は、都市と自然の境界を明瞭にし、美しい都市風景を生むと同時に生活に潤いを与えてくれる。今後このような運動が各地で盛んに行われることを期待し、大きなムーブメントとなったところで推薦することにした。

## 選考結果

○JUDI賞「幕張ベイタウン」

○特別賞 ・「大都会東京にある巨大な人工の森」

○奨励賞 ・「荒川の船運」  
・「つくり、育てる谷中」－江戸のあるまち谷中 ホットする環境をつくり育てる－

○功績賞 ・「代官山のアーバンデザイン」  
・「横浜市の都市デザイン行政」  
・「小布施のまちづくり」  
・「浜田山タウンセンター」

○功労賞 ・日本興業株式会社「PURE」  
・株式会社INAX  
「ESPLANADE」  
株式会社建築資料研究社  
「造形」

関東ブロックが大賞候補として期待した「幕張ベイタウン」の得票数は5点で、9作品中下から2番目であった。大賞の「水遊都市」－ひょうたん島の環境形成活動

(徳島－四国ブロック)、第2位の「鴨川と納涼床」(京都－関西ブロック)、第3位の「函館からトラスト」(函館－北海道ブロック)等は、全てハードよりも人の手が中心的に係わっているような印象を受けた。市民の活動が初めにあり、後からハードが整備されるという流れのまちづくり。人が見える形でまちづくりが行われていることの素晴らしさをプレゼンテーションにおいて感じ評価した参加者が多かったように思われた。

それに比べて「幕張ベイタウン」は市民不在(入居前では当然であるが)、行政や専門家主導でつくってお終り、というような印象が強く残る。人の活動が感じられず、その点で参加者の共感を得ることがなかったように思う。この結果は、昨今まちづくりの様々な場面で提唱されている「まちづくりからまちづかいへ」の新しい時代の流れを反映する結果とも受け取れる。

つくった空間の立派さやカッコよさに価値が与えられる外見中心の時代から、市民一人一人の小さなまちづくり運動から新しい暮らし方を発見し、それに合わせて空間が

つくられるといった流れのまちづくり。中身と外見が一致したまちづくりが、今世紀において大いに波及することであろう。

幕張ベイタウンも現在では自治組織が誕

生している。次の機会には、まちづかいの素晴らしい都市空間として紹介できるよう、ブロックとして見守り育てる必要があると考える。

## 運営上の問題点

### ○体制づくり

JUDI賞事業委員会からの提案内容を代表幹事会にはかり、決定した内容をJUDI賞事業委員会に持ち帰り、それをブロック幹事に伝達するという流れの中での選考作業であった。冒頭にも述べたが、私を含めて数名のJUDI賞事業委員がいた関東ブロックでは、スムーズに事が運んでも良さそうなものであったが、本部作業に時間が取られたり、会議スケジュールがリンクしていないために無駄な日数を割いてしまうなど、ブロック作業の足を引っ張ってしまった部分がある。JUDI事業の委員とブロックの委員が重ならない組織体制を組むことやブロック会議のあり方を、全体の流れに合わせる工夫を行うべきであったと考える。また、運営委員のみに作業負担が集中してしまい、事業の達成感より疲労感が残ってしまうという悪い状況が起きてしまったと感じている。会員の人数からすると信じられないことであるが、十分に協力者を得ることが現状では難しい。事業初期における呼びかけなどを積極的に行い、しっかりした組織体制をつくる努力が必要であった。このような状況を改善する一つの方法として、会員がだめなら学生など臨時のスタッフを加えるなど、状況によって体制を自由につくることが重要であったと考えている。

### ○選考手法

アンケートの回答が期待はずれであったことなど、やり方に対する検討や準備などが充分ではなかった。また、選考地域が広いため、東京中心の運営委員では地方の情報を隈なく集めることができなかったことな

ど、選考能力不足の感は否めない。日頃からブロック内の情報を収集できるような企画や、まちづくりを追っかけたり応援する企画の必要性を感じた次第である。

### ○パネル作成

パネル作成についての問題点は主に2つある。一つは、対象都市空間をA1パネル1枚に収めるというルールは、普段からコンペなどで作業慣れをしてない会員にとって、負担があったように感じている。言いたいことをしばって表現することに慣れていないため、それを十分に伝えることができず、その結果がパネルの良し悪しとして現れてしまっている。また、今回の対象は都市という大きなスケールを扱うこと、長い歴史的内容を伴うこと、市民運動は形に見えにくいことなどを一枚のパネルに表現するというもので、慣れてる人にとっても大変難しい作業であったように思う。この点について個人的には、パネルに限らずビデオや実演など、もっと表現の自由度を与えるべきではないかと思うが、競い合うことを考えると作業のための時間やお金を掛け過ぎるケースも出てくる可能性がある。何れにせよ表現方法について十分に再考する必要があると思う。

もう一つは、最終選考用のパネルを当事者に依頼する時間が取れなかったために、代わって運営委員が作業する状況となった。当事者でない人が推薦空間の良さを十分に伝えることは難しかった。一部、当事者の手で作成したパネルもあったが、これとて勝手にお願ひただけでお任せ状態であった。ブロックとして、受賞するための戦略的内容を検討し、表現に反映しても良かったのではなかったかと考える。

### ○「幕張ベイタウン」

わが国の計画的住宅設計（集団と団地型）

の量産型・画一的な住棟ではなく、千葉県は時代の変化に沿わせるように、「街をつくる」形として中庭を囲む街区型の配置

## 当時の推薦文

を採用し、市街の景観や住居の意識を街住み、街を創るマインドに高めようとする試みに挑戦している。またその計画を設計と居住者の選択性との間の関係のあり方を従来とは変えて、群としての協議・調整によって進めようとする手法を試みている。この意味で画期的な住宅地計画・設計手法の登場と言うことができる。さらに進めば、街をつくる社会的ソフトすなわち店舗やサービス機能の形成や更新のあり方、応募の手法などの発展を期待したい。

#### ○「大都会東京にある巨大な人工の森」

21世紀を迎える節目にあって、JUDI大賞は、今世紀の日本の都市空間、景観に長年にわたって大きな功績を残し、かつ21世紀に継承すべきものとして多くの人が共感し得るものに与えられることが望ましい。これは、近年の優れた取組に対する評価とは異なった視点である。東京、神宮内苑の森はまさにこのような視点から選ばれるべき代表的な空間であり、かつ森づくりに際しては、このことを予見して長期間の植物の遷移を視野に収めて樹種が選択されており、今後の私たちの取組にも大きな示唆を与えるものである。

#### ○「荒川の船運」

一人の若き女性の「川に船を走らせたい」という一途な思いが、関係する様々な機関や実業家を動かし、埼玉県浦和市秋が瀬から東京都葛西臨海公園までの船運を実現させた。たった一人のロマンが制度を変え、魅力的な都市環境デザインを達成した。

#### ○「つくり、育てる谷中」－江戸のあるまち谷中・ホッとする環境をつくり育てる

いかに地域を再認識し、再発見するかという、地域を見つめ直すことから住民の意識向上を目指した「環境学習プログラム」。町の人々とのやりとりに発し、改善箇所を住民自らの提案でどう変えていくのかという話から具体化していく「地域改善プログラム」。谷中学校では谷中に住まうということの楽しさ・すばらしさを今そこに住む人たちが再認識することから始まるまちづくり活動を推進し、谷中という地域に根ざした住民活動を先導している。

#### ○「代官山のアーバンデザイン」

1969年から1992の四半世紀もの長きにわたる間、代官山において一人の地主と一人の建築家（楨文彦氏）のタッグマッチは、東京に魅力的なまちなみ風景を作りだしてきた。「建築家のアーバンデザイン」として最良の一つと評価できる。

#### ○「横浜市の都市デザイン行政」－港と丘とまち・横浜都心部の魅力をつくる－

バブル経済に突入する結果に終わった日本の高度経済成長。放置すれば経済効率理論だけの都市景観を創ろうとする動きを、横浜市の行政は都市デザイン室の創設によってコントロールした。その功績は成果とともに大きい。しかし時代は変わっている。新たな市民型社会における都市デザインの実現に向けて、実践と先導を大いに期待したい。

#### ○「小布施のまちづくり」

小さな核から始まり、それが少しずつ拡がり、街づくり整備へと発展し、小布施を全国レベルの観光地とした。影に日向に心地よい空間を支え推進したホームドクター的存在である建築家、地元代表の宮本忠長氏の功績は大きい。

#### ○「浜田山タウンセンター」

1975年、相続をきっかけにそれまでの農地を活用して、「借地権付低層集合分譲住宅」「商業施設と賃貸住宅や店舗付共同分譲住宅の複合開発」、杉並区で初めての「一団地設計」「樹木保存」「駅前商店街へのしかけ」など、草の根プランナーやデザイナーもこの開発に協力した。その後、今日に至るまで適切な環境管理がなされ、地域にとけ込んでゆくプロセス型デザインが注目される。その後の低層集合住宅に影響を及ぼすこととなったプロジェクトである。

#### ■パネル内容

パネルをそのまま縮小したものでは見にくいので、JUDIニュース用に再編集したものを掲載するが、充分ではないのでその点ご容赦願いたい。

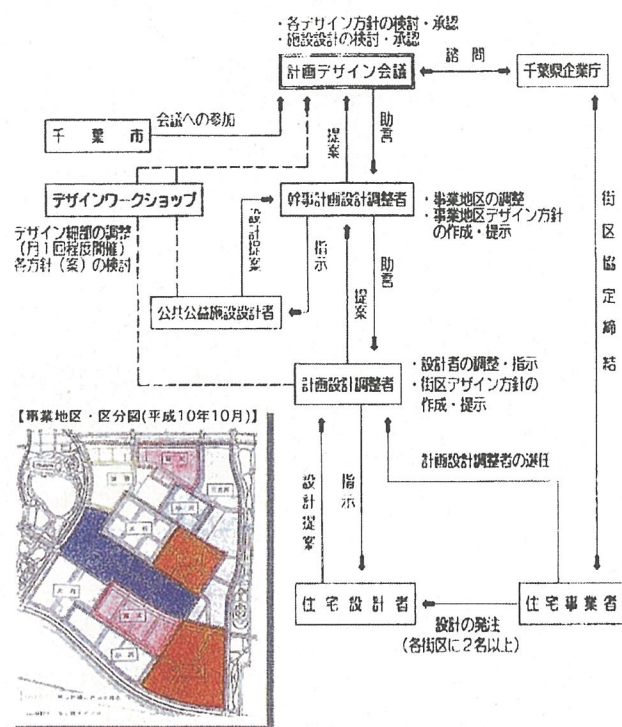
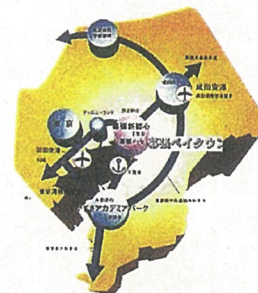


# 幕張ベイタウン

都市デザイン原則を尊重した街づくりシステム  
イニシアティブによる街づくり

## 都市デザイン調整システム

- ・都市デザインマスタープランと都市デザインガイドライン
- ・千葉県企業庁によるインフラ整備、事業進行管理
- ・複数事業者の参加 (34民間企業、2公団会社からなる8公民事業グループ)
- ・1街区に複数設計者の登用
- ・また、複数設計者による多様性の実現
- ・計画設計調整者グループ (WS) による都市デザインの生きた管理・運用



●都市デザイン調整フロー

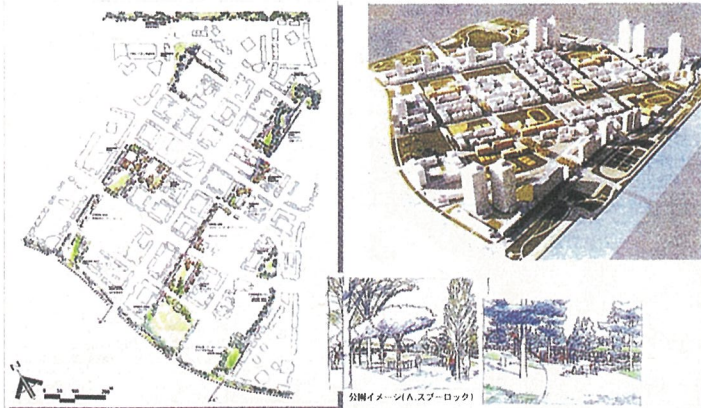


●デザイン・ワークショップ



●複数設計者による設計会議

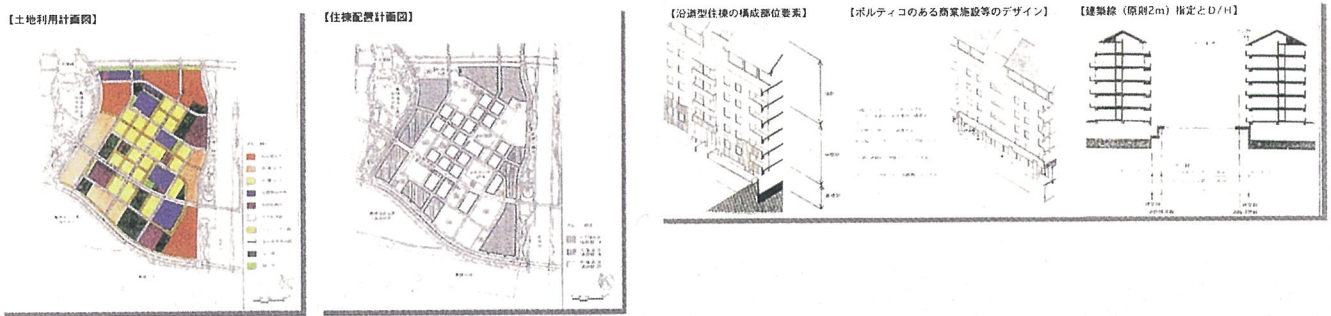
●マスタープラン策定時の街の全体模型



●公園緑地マスタープラン(平成4年10月)







●都市デザインマスタープラン (平成3年3月)

## 沿道型建築を基本としたデザイン

- ・沿道型住棟による整った街なみ(近代のオープン、平行配慮をとらない)
- ・結果として個性あふれるパティオ(中庭)の創出



平成12年6月に竣工した高層街区  
グランパティオス公園東の街 (H-10 街区)



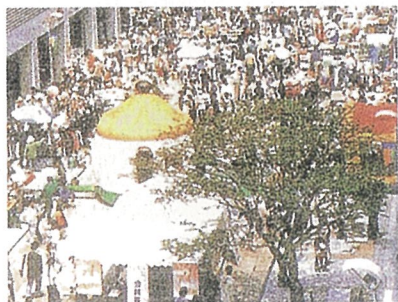
パティオス2番街区の中庭



「グランパティオス公園東の街」の中庭

## 都市デザインからコミュニティへ

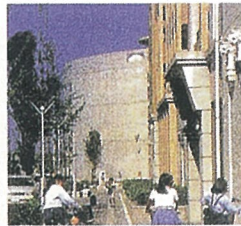
- ・住民の街づくりへの参加・まちの運営への主体性発揮
- ・ベータタウンまつりほかイベント企画・運営
- ・街の中心・コミュニティの拠点となるコミュニティ・コア施設への期待



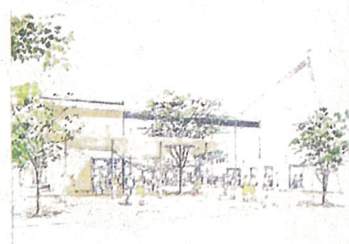
ベータタウンまつり(5月)



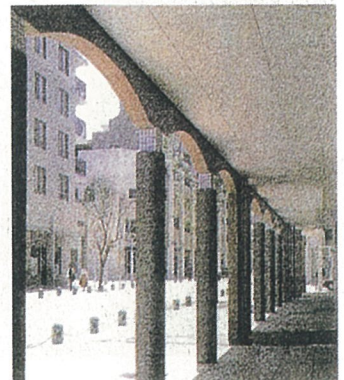
打瀬小横の緑地・園路



レベルを無くした歩道空間



平成14年3月開園予定のコミュニティ・コア早期整備施設  
(施設内容は、公民館、図書館、子供ルーム)





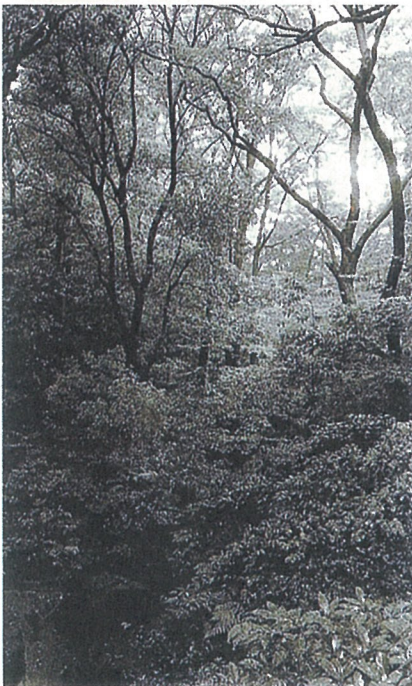
# 大都会東京にある巨大な人工の森

— 明治神宮の森 面積70ha



永遠の森をめざして、70年前の大正時代に人間の手によって造られた。

- ・畑地や草地のような土地を神域とするために、この地にかつて存在した森林を天然更新によって再現する高度な植栽計画を行った。
- ・先人たちの思いが込められた貴重な森は、今日では多くの人々が心の安らぎを求めて訪れている。



自然の畏敬に包まれる



森に集う



森を造る



森の息吹



森を守る



# 荒川の舟運

都市の水辺が見直されて久しい。

水辺は、身近であっても地域の暮らしとは遠い存在となっていたが自然環境や景観といった視点で再認識されはじめたのである。海洋商船(株)の荒川水上バス運航が、地域の目を水辺に向け建設省や運輸省の制度を変えるきっかけとなった。



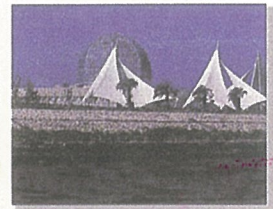
## 1. 移り変わる川の風景

■一級河川荒川は、埼玉県大滝村を水源とする。今の隅田川のことで、たびたび洪水を引き起こす暴れ川であった。明治23年の大水害を教訓に荒川放水路の建設が決定され、現在の北区岩淵から江東区砂町地先に至る22km間が開削された。完成は昭和5年という長きにわたる工事であった。

現在では、東京湾沿いに葛西臨海公園や東京ディズニーランド、台場などの施設が立ち並び、それらを結ぶ路線の水上バスが荒川の川面をすべる。



●荒川水路の建設工事風景



●葛西臨海公園



## 2. 「荒川になぜ舟が走っていないのか？」の疑問から出発

■海洋商船(株)(本社・埼玉県川口市)総務部長の吉本玉子氏は、「荒川に舟を走らせたい」との思いから、河川の調査から会社の設立、舟の発注までかかってきた。それまで舟運の知識や経験は全くなかったが、今では建設省の審議会委員も務めるようになり、役所から「こういう人がいなかったら建設省は変わらなかった」とまで言わしめた人物である。「荒川になぜ舟が走っていないのか」の疑問からの出発だった。

●読売新聞で紹介された吉本氏

## 3. 変わる行政の対応

■こうした活動が舟運に消極的だった建設省や運輸省も動き、平成8年に出された建設省の答申では治水だけでなく、環境及び利水の視点を取り入れられることとなった。

平成11年には河川舟運の推進が重点施策の中に盛り込まれ、通航標識の設置など船舶の通航ルールの確立や、船着場や河川の整備、街づくりなどによる河岸のにぎわいの復活が挙げられた。

平成12年には、荒川の秋ヶ瀬から河口までの水面は河川舟運促進区域に指定され、水上オートバイの運航方法を制限する区域や動力船の通航禁止区域など、自然環境、水面や水際の実用状況に応じて特定の区域を指定するまでに変わった。

## 4. 荒川舟運の将来

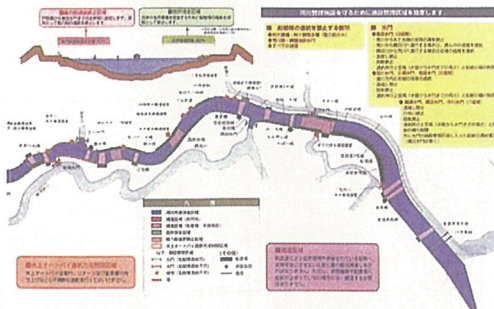
■建設省では、平成7年に発生した阪神淡路大震災において救援物資の移送などに舟運が大きな役割を果たしたことにより、平成11年度にリバーステーション構想を打ち出した。荒川に12ヶ所整備中で、現在6箇所が完成している。

平成16年には荒川と小名木川を結ぶ閘門が復活し、小名木川を通じて荒川と隅田川につながる。日本橋や浜町、箱崎にも船着場がつくれ、多摩川、江戸川など各地域を結ぶ本格的な舟運ネットワークが広がる可能性が出てきている。

舟を走らせ、広い静かな荒川の河川敷や街を川から違った視点で街を見ることは、環境や景観への関心も呼び起こすきっかけともなった。地域の水辺に対する関心もますます高まり、川筋を生かした街づくりが進められることになる。こうした動きのきっかけになり、新たな役割を担っている荒川舟運の復活は、官民一体の協力的体制整備の上でも評価されるものである。

## 航路開拓の歴史

昭和59年	荒川水上交通調査に着手
平成1年	海洋商船株式会社 設立
平成2年	「クィーンメリッサ1、2、3世」荒川に進水
平成3年	埼玉県と「埼玉県荒川水上バスモデル航行」実施に関する協定書締結
	申請航路の旅客不定期航路事業認可
平成4年	「クィーンメリッサ5世」荒川に進水
平成6年	多摩川航路 独自運航調査開始
	埼玉県とモデル航行終了後の本格事業化に向けて協定を締結
	第1回多摩川水上バステスト運航実施
	荒川水上バス 本格運航開始
平成9年	平井水上ステーションオープン(荒川)
	「河川舟運に関する検討委員会」第1回開催・委員参加
平成10年	「荒川流域魅力発見ツアークルーズ」運航開始
	「河川舟運に関する検討委員会」報告
	「川と港を活かしたまちづくりと舟運シンポジウム」パネリスト参加
	「川の日フォーラム」パネリスト参加
	荒川船上文化講座 開講開始
	「環境にやさしく災害に強い水の道シンポジウム」荒川の活用を考える一主催
平成11年	江東区水上バス事業を承認
	多摩川水上バス99年度暫定運航開始
	レインボークロス・葛西臨海公園～お台場臨海公園橋樑開通
	「七郷県市合同防災訓練」において、帰宅困難者を想定しての水上人員輸送の訓練を実施
平成12年	川口リバーステーション 就航開始
	岩淵リバーステーション 就航開始
	堀切リバーステーション 就航開始



●「荒川における船舶の通航方法(原案)」:建設省より



●荒川リバーステーションマップ



●舟運が栄えた1920年代の閘門付近



# つくり・育てる谷中

町方・寺方と谷中学校の実践

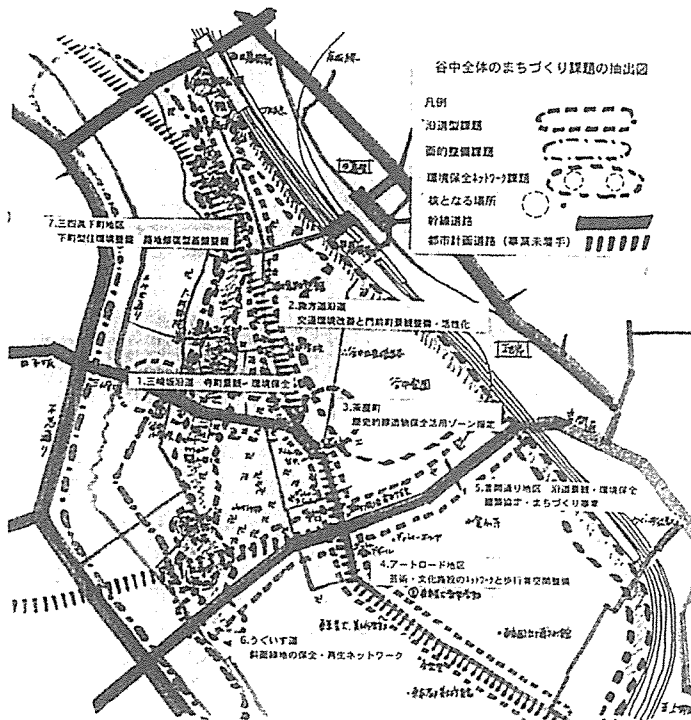
## 江戸のある町 谷中 ホッとする環境をつくり・育てる

- ・町方・寺方（住民）の思いを具現化する
- ・時の重層を残し、繋げてゆく
- ・日頃のつきあいを大切にできる
- ・大きな自然・小さな自然を読み、いかす

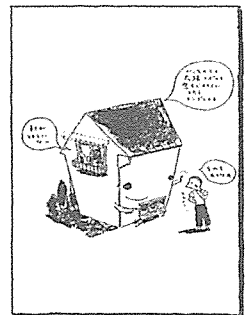
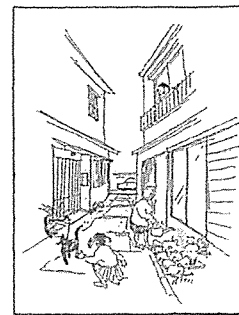


### ■まちと人が決める谷中の町

谷中のまちのイメージ提案



●谷中の全体構想

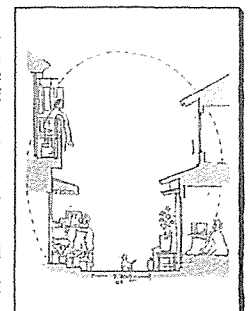


●子供ジャングル探検隊



●暮らしの道 再発見ツアー

### まちづくり住まいづくりの知恵袋



谷中学校 まちごすまいの相談室



# まちと住まいの相談室

—この町らしさをいかす—  
**“住まいのデザイン” 8つのポイント**  
 ・町の情緒を生かして、  
 ・住みにくいところは改善して、  
 ・この町にふさわしい住まいとは？

**この町らしさを  
感じたい**  
 場所や環境に合わせて住みやすい家  
 考えるように、住みにくいところのTPDが  
 あります。この町らしさを生かしてこ  
 んな住みやすい“住みやすい”を  
 実現したいのです。

**密度を高く  
すべし**  
 密度が高ければ？でも住みやすい家  
 に入らなくてはいけません。安全だし、ヒ  
 ューマンスケールの設計も重要です。  
 工夫をこらして高密度を住みやすい  
 家にするのです。

**地域と交流する  
住まい**  
 近所づきあいは地域の発展に  
 不可欠です。近所づきあいのつら  
 さがご近所との交流を促したり  
 コントロールしたりする事が  
 重要です。

**なびわいを  
実る住宅**  
 住居や公共施設は地域の  
 発展を支えます。居住人口  
 を増やすためのネットワーク  
 づくりが重要です。

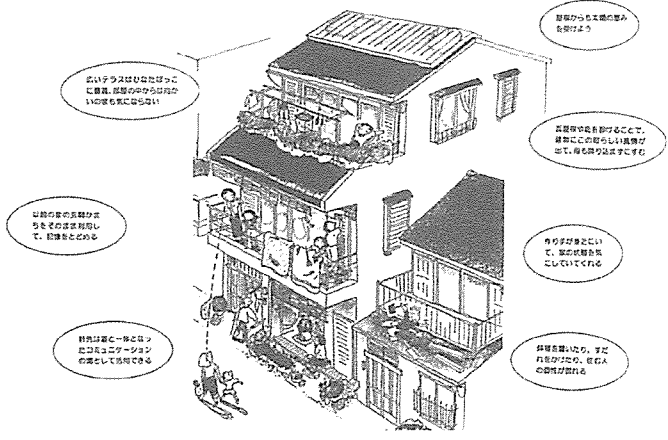
**住む人の個性が  
見える家**  
 住む人それぞれの個性や好み  
 の違いを尊重して住みやすい家  
 を作るべきです。家づくり  
 にも個性を尊重して住み  
 やすい家を実現したいのです。

**緑を  
あしらう**  
 小さなスペースでも緑を  
 取り入れたいです。自然が  
 暮らしを豊かにしてくれます。

**安心な町**  
 防災や防犯は生活の基本。ち  
 ゃんとした設計の配慮で防犯  
 対策の入りやすい家を実現  
 したいです。

**世代を隔てて  
住み分けられる**  
 子供と、親とこの町に住み  
 分けたい。世代が異なる  
 人も住める家づくりの工夫  
 や環境を整えて住みやすい  
 家を実現したいです。

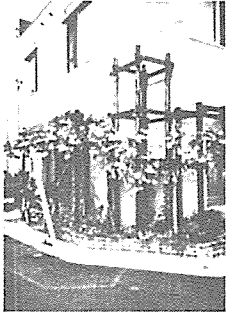
図説・この町らしさを生かした住まい



●谷中らしい住まいのガイドラインを作成



●マンション紛争からまち共生デザインへ



●さびしいメーカー住宅の外観にセルフビルドで間いを!

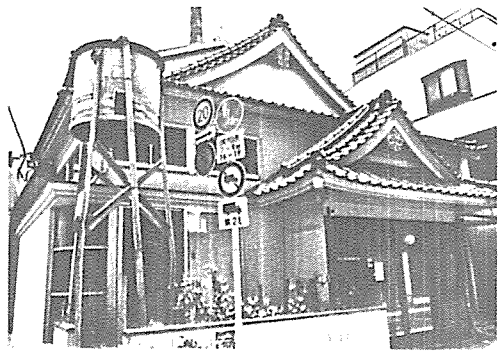
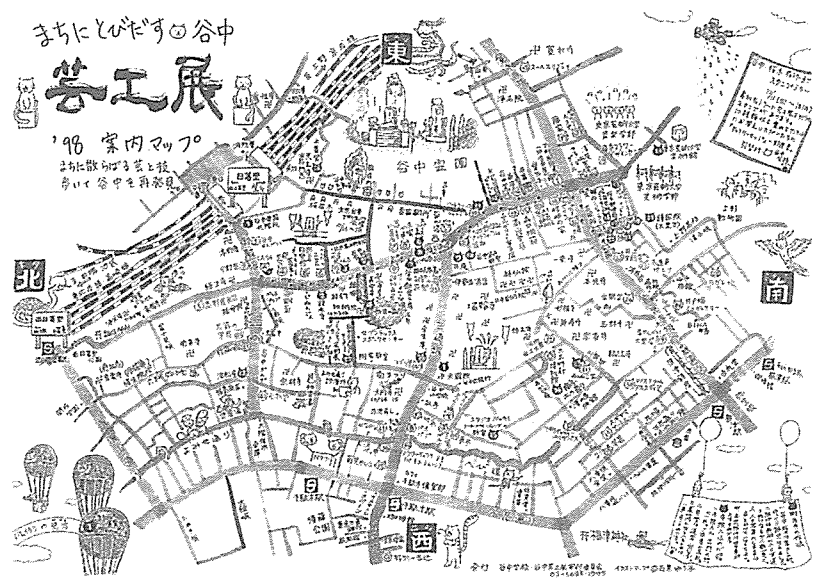
# まちにとびだす芸工展

アートとまちづくり

まちにとびだす谷中

**芸工展**

'96案内マップ  
 一緒に散らばる芸術と  
 歩いて谷中を歩こう



●SCAI THE BATHHOUSE  
 銭湯を現代美術のギャラリーへ



●まちじゅうを展覧会場に

## ヒルサイドテラス

### ■街のイメージを形成した 都市空間

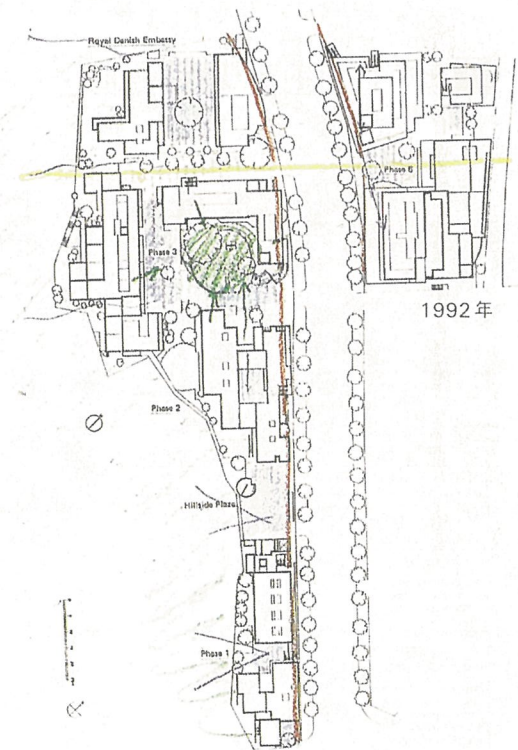
- おしゃれた街「代官山」の象徴
- 四半世紀の歳月をかけてつくられた落ち着いた街並み

### ■1人の建築家による アーバンデザイン

- 旧山手通りに対する一貫した領域性
- 大きな広場ではなく建物の間の小さな広場
- 各時代様式の違いの中の統一性

### ■風景の構築

- 空間が人の行動を生み出す
- 都市がもつ外部空間と建築でつくる外部空間の連鎖



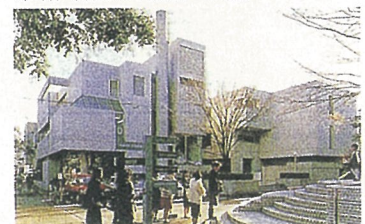
ヒルサイドテラスのランドスケープ。槇氏が説明しながら彩色。青が広場空間。旧山手通りから視線が抜けることを意図している。赤線は旧山手通りに対する壁面性。黄色は第5期まで(旧山手通りの左側)と第5期(同右側)の広場の関係性を示す。



周辺図 右下が「ヒルサイドテラス」、左下が「ヒルサイドウェスト」。



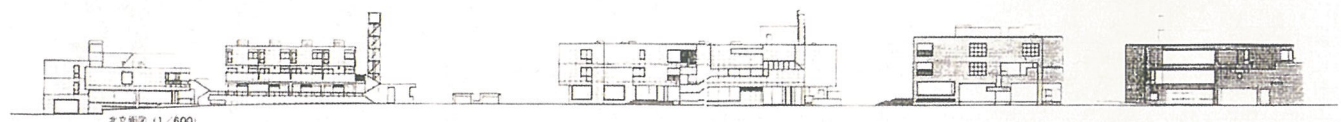
第1期(昭和44年完成)のB棟



第2期(昭和48年完成)のC棟

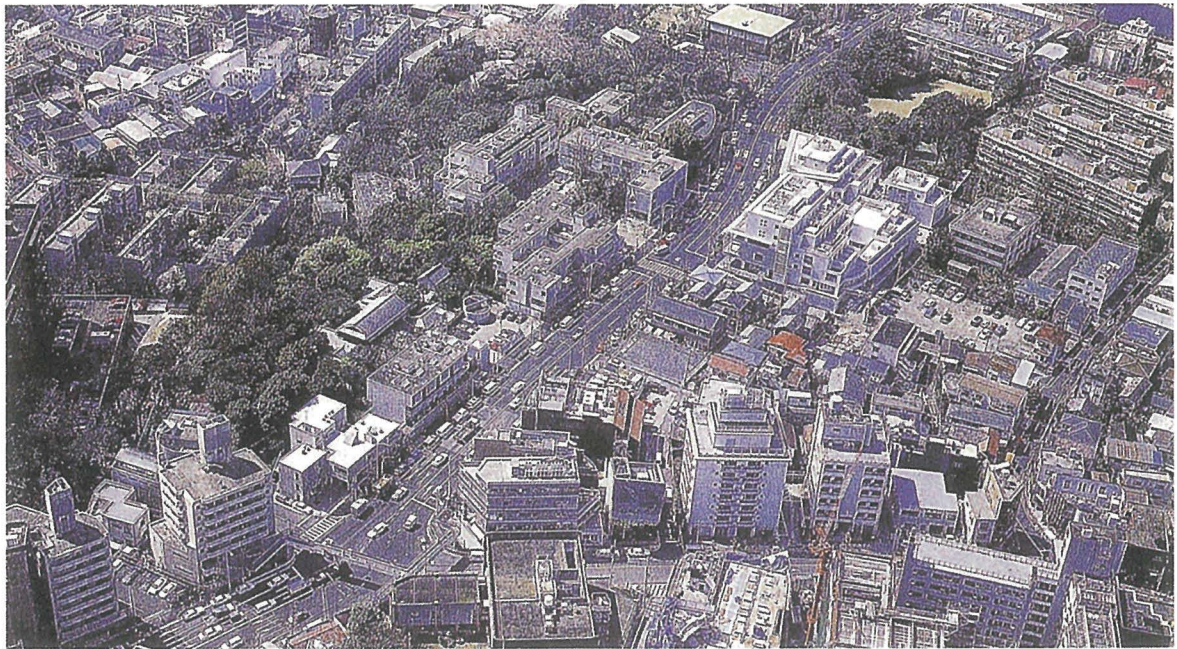
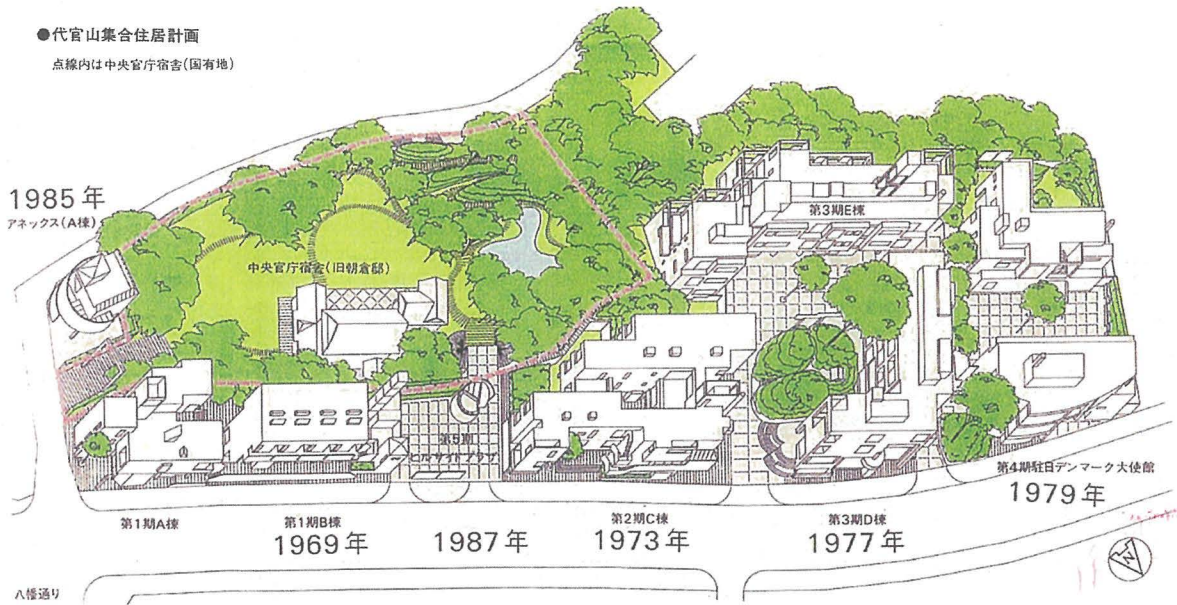


第3期(昭和52年完成)のD棟

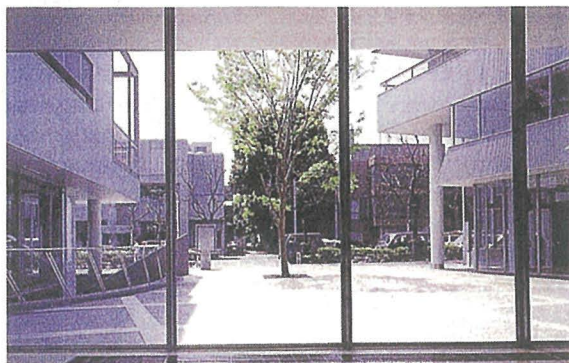




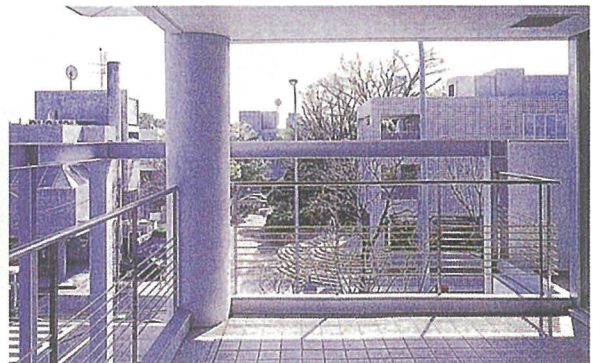
●代官山集合住居計画  
 点線内は中央官庁宿舎(国有地)



ヒルサイドテラスの航空写真



中庭



第6期の住居のテラスから見た塚のある広場



# 横浜市の都市デザイン行政

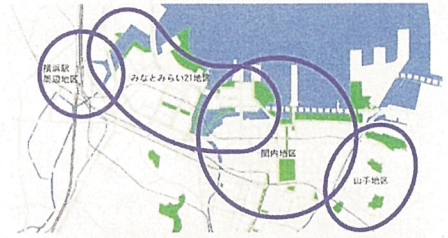
「港と丘のまち」  
横浜都心部の魅力をつくる

## ■都市デザイン7つの目標

- ①楽しく歩ける道を作る
- ②地形や植生の特徴を生かす
- ③歴史的・文化的資産を大切に
- ④まちの中に緑を増やす
- ⑤水辺を大切に
- ⑥まちに広場をつくる
- ⑦街なみを整える

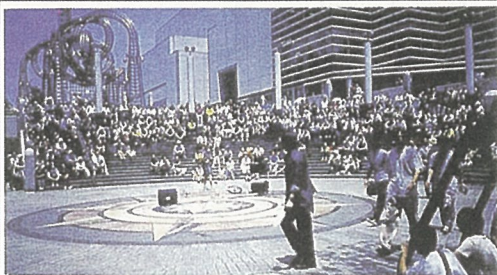
## ■都市デザインの取り組み方

- ①公共事業と連携した企画的都市デザイン —— 都市づくり専業の企画、立案から行う都市デザイン
- ②調整的都市デザイン —— 街づくり事業に関わる関係者を調整し全体として秩序と魅力を作り出す
- ③誘導的都市デザイン —— 街づくりの質的向上を目指す、ルール・制度の策定とその効果的な活用・運用
- ④パートナーシップ型都市デザイン —— ユーザーである市民の自主的な街づくり活動の支援
- ⑤デザイン開発・国際交流 —— デザインに関連する幅広い分野との交流と生活文化としてのデザイン開発
- ⑥調査・研究・PR —— 都市デザインをより充実させ、市民の理解を深める



## みなとみらい21地区

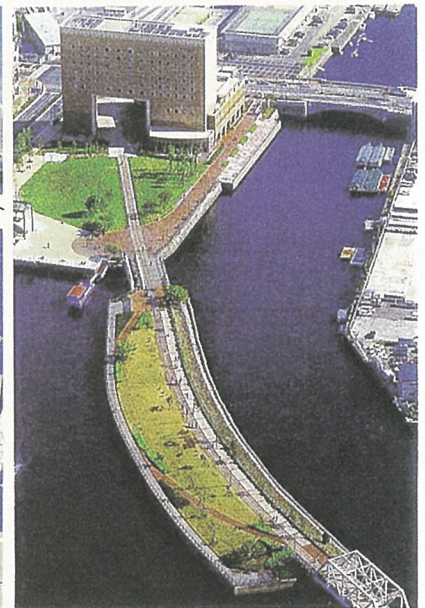
- 鉄道ターミナル横浜駅と旧都心関内を一体化し、新たな活力創出のため、業務機能や国際コンベンション機能などの集積を図って建設中。
- かつてここにあった造船所や鉄道ヤードなどの地区の記憶を、新しい街づくりの魅力として水辺の都心空間にリニューアルした。



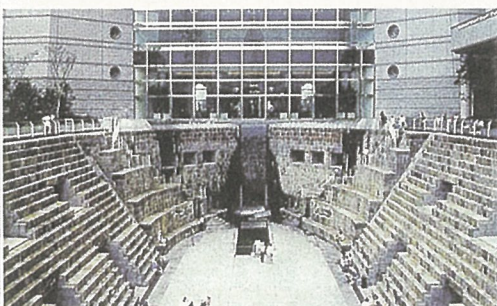
人がふれあえる多目的広場



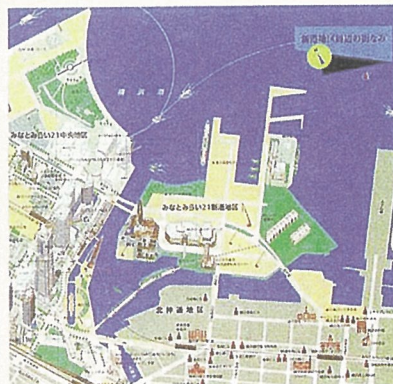
新旧の対照が新しい魅力を生むウォーターフロント



自動車道：臨港貨物船の線路敷を活用したプロムナード

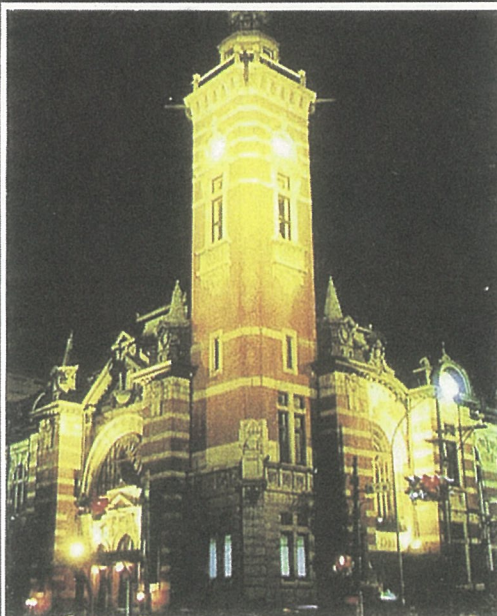


ドックヤードガーデン：土木遺産も街づくりに活用

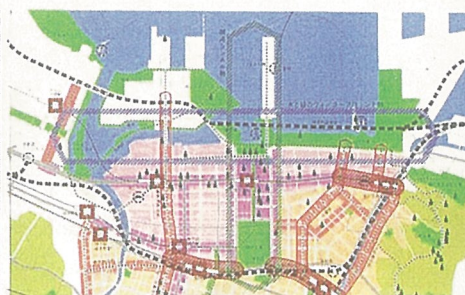


## 関内地区

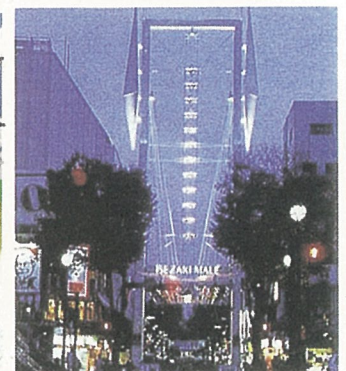
- 1859年の開港により外国との窓口となる関内居留地（商館街）は、お雇い外国人プラントンやパーマーなどの都市計画のもと現在の街の骨格がつけられた。関東大震災、横浜大空襲、戦後の米軍による接収などによる停滞から都市デザインの推進により都心を再生。
- 歴史的建造物の活用と、歩行者プロムナードのネットワークによる活性化を図っている。



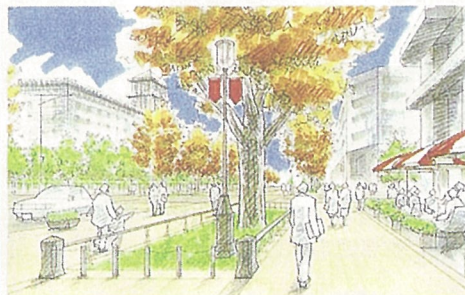
都心部の夜景を演出するライトアップ事業



歩行者動線ネットワークの形成



商店街街づくり協定とプロムナード整備



日本大通の再整備イメージパース



横浜情報文化センター



# 山手地区

- 横浜開港にもなつて、関内居留地で活動する外国人の居住地としてつくられた丘の上の街。
- 現在も横浜有数の住宅地・文教地区であると共に、横浜文化発祥の地として訪れる人が多い。
- 住環境の保全と文化・レクリエーション・来訪者の環境の共存を図る都市デザインが行われている。
- 洋館群をはじめとする歴史的資産の保全活用と緑豊かな斜面地公園の整備を核に、「山手景観風致保全要綱」による街づくりが行われている。



山手通りの街づくりマップ



元町公園とエリスマン邸 (レイモンド設計)



山手イタリア山庭園と外交官の家 (国指定重文)



港の見える丘公園と山手111番館 (モーガン設計)



山手イタリア山庭園とブラフ18番館

## 都市デザインフォーラム

●市民や内外の専門家が同じテーブルで今後の「デザイン都市横浜」を考え、議論する場としての国際会議「都市デザインフォーラム」を始め、数々の内外の交流が行われている。



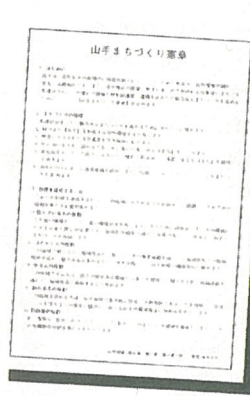
## 関内デザインシップ

●横浜都心の関内に新たな息を吹き込むため、横浜を愛する人の手で街づくりを盛り上げる街づくりクラブ。



## 山手まちづくり懇談会と山手234運営委員会

●二つの町内会・学校・企業など山手住民の有志と行政の関連部署が「山手まちづくり懇談会」を設立。まちづくりのビジョンと方策を議論している。



市の所有する山手234番館の市民運営管理が行われ、市民と行政のパートナーシップが実現。



# 小布施のまちづくり

“まちの遺伝子を引き継いだ心地よいコンパクトタウン”

長野県小布施町は、各時代時代で自分たちのまちを快適で魅力あるものとするため、遊び心や他文化などの新しい価値を受け入れ、交流とコラボレーションにより活力と刺激を生み出し、「若衆（わけしょ）」と呼ばれる若い世代の新しい発想を活かす気質と、「遊学精神」というまちづくり哲学が、気持ちよく一生過ごせるまちを維持している。



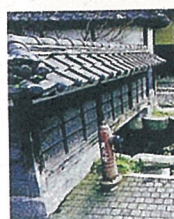
## ■コンパクトなまちに適した開発手法と開発速度の適用

- ゆう然楼の修復保全、民家の移転保存、街並みにそぐわない銀行の改築、駐車場を兼ねた「職の広場」整備、栗の小道整備、土地の等価交換、道路の付け替え、拡張部分の無償貸与、借地など
- 国庫補助なしの官民一体の町並修景事業（行政指導による年度単位の短期間事業は小布施になじまないと判断）
- マスタープランのない開発と小布施に適した開発速度



## ■生活者重視のエコミュージアム

- 9つのミュージアム
- 自然と生活と、産業風景による町中のエコミュージアム
- 工場や住宅を中心部から郊外へ移転せず、それまで根付いていた企業や生活空間を土地と切り離さずに、土地に適したものを残したり、つくる「群居の発想」
- 観光客のための外向きではなく、生活者重視

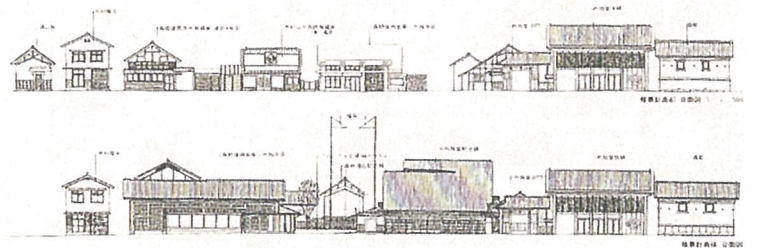
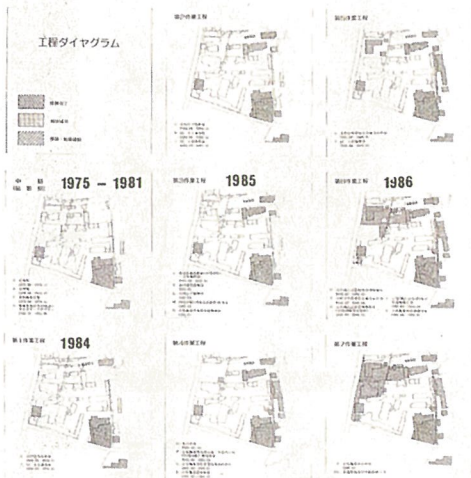


「小布施町並修景事業＝ゆう然楼周辺町並修景事業」



県道から見るゆう然楼周辺町並修景事業地区





## ■「パーク&ウォーク」と「パーク&ライド」

- 「パーク&ウォーク」は、中心部外側（徒歩7分）に町営駐車場を設置し、徒歩やレンタサイクルでまちのスケールや空気、季節をや文化を肌で感じとれるような工夫。
- 高速道路の「ハイウェイオアシス」は、PAから町中に入れるパーク&ライド。



ハイウェイオアシスと町内を結ぶ町営周遊シャトルバス

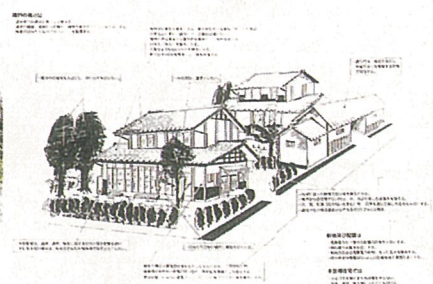


## ■ホームドクターとガイドライン

- 地元職人研修団体「小布施景観研究会」による非営利活動。外壁の仕上げ方法、屋根の形態などについて町の景観指針の普及
- 地域デザイナーとして、時にはマスターアーキテクトとして、地域に適した暮らしやすさを追求する建築家宮本忠長氏の哲学
- 行政と市民の協力による街並みガイドラインによる環境デザインのマナー教育や専門家への相談



マニュアルに沿って建てられた住宅



美しい町並みづくりのために

## ■TMOの先駆け (株)ア・ラ・小布施

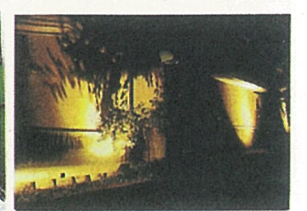
- 行政と民間の中間的なビジネス
- 出資者55者（商業者、一般住民、役員職員）1口50万無配当
- 事業目的の第一は、地元農林産業振興で、信州カラ松のプランターやリングジュース（OEM生産）の開発製造販売が主。
- さらに情報発信基地として、町営のガイドセンター、喫茶店、レンタサイクル、観光案内、視察団体の案内（有料）、朝市などのイベント企画運営や印刷物の出版、ゲストハウス運営。



ア・ラ・小布施直営のゲストハウス



ア・ラ・小布施



あかりづくりマニュアルによる夜間



# 浜田山タウンセンター・・・そのトゥルー・ストーリー



1975

**実**はこの、ライプツタム浜田山を含む浜田山北口周辺地区の開発計画「浜田山タウンセンター」はいわゆる通常の開発計画として始まったものではありません。

1975年7月12日、杉並でも有数の地主である安藤嘉蔵氏が亡くなりました。安藤家は浜田山北口を中心に多くの土地を持つ地主さんで、安藤氏の息子さんにあたる安藤和夫氏を中心に浜田山駅北側に広がる地で農業を営んでいました。

安藤氏の死亡により巨額の相続税が和夫氏に課せられました。が、安藤氏は「土地を絶対に売ってはならぬ」という遺言を残しており、和夫氏としてはこの父親の遺言に反して土地を売って相続税を払うことなどという出来ぬ相続税でした。

そこで安藤家の資産を管理していた地元の青木不動産に相談をしたところ、青木氏は知り合いのプランナー数名に声をかけ、「どうしたら相続税を払えるか？」プロジェクトを立ち上げることにしました。

プロジェクトチームには商業系のプランナー/デザイナー、建築家、アーバン・デザイナーの卵、などが集められました。これら数名が浜田山の青木不動産に集まって、相続税をどうやって支払うか？というテーマに取り組みました。1975年秋の事でした。

唯々調々と議論を尽くす中、一層住居専用地域には高さ制限10m（当時軒高制限はなかった）でもあったことから低層集合住宅を建て、それを借地権付きで分譲する。地主はその借地権の売却代金の一部で幹線道路沿い（容積率200%部分）に高層賃貸住宅と商業ビルの2棟を建てる（当時、用途地区は敷地の過半が適用できたのでそれを目一杯利用した）。駅前通りをばさんだ反対側の一列には店舗併用の分譲共同住宅を建てる。といったシナリオが出来上がりました。さらにそれを元に計画案を練り上げました。

プロジェクトチームはこの案をチームごと買ってくれるディベロッパーを探し（ほとんどのディベロッパーは、家は買い取るがその後は自分達が持っているプロタイプを敷地に並べるといふ事でした）、その結果当時まだ低層集合住宅のノウハウをもっておらず、近々進出しようとしていたディベロッパーが手を上げました。

**地**主側は15億の相続税の内3億を現金として支払い、賃貸部分からの収益でその後の支払をする、というフォーミュラを得ました。

**ディベロッパー**はこのプロジェクトによってその後続くライプツタムシリーズのノウハウを蓄積しました。

**浜田山北口**は畑が広がっていたので街としての成熟が遅れていたのですが、このプロジェクトが出来たおかげで南口よりも大膽な発展を遂げ、その後浜田山という地域全体の「地くらし」が上がるのに大きな貢献を果たしました。

**プロジェクトチーム**は？ 弱小フリーランサー連の集まりでもあったため、ライプツタムシリーズ第2弾の泡盛計画以降それぞれ道を歩いて今に至っています。

こうしてライプツタム浜田山を含む浜田山タウンセンターが出来上がったわけですが、このプロセスはいわゆる役所や大企業主導による一般的なアーバン・デザインとは少し違うと思います。またこのプロセスこそがこのプロジェクトの存在価値だと思います。

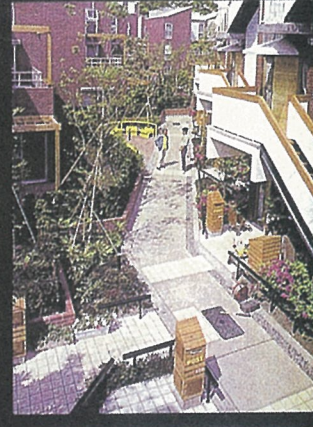
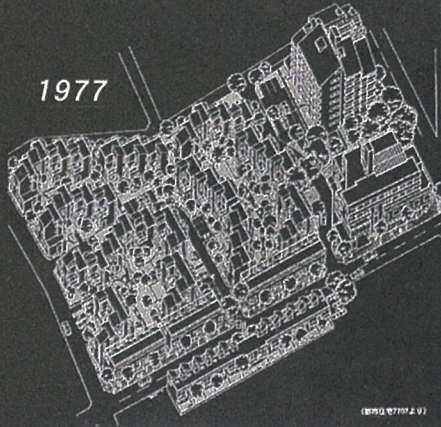
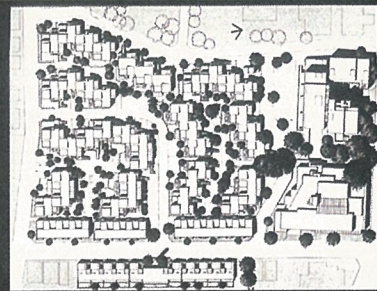
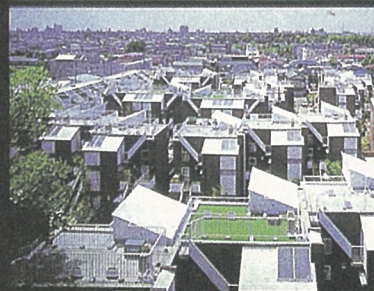
今思い返しても、「農地から宅地への転用」から始まって「複数敷地への分割」、「開発行為」、杉並区で初めての「一団地設計」、さらに個々の「確認申請」など多岐にわたる手続きの連続、また事後的、計画的にも「土地借地権付きの低層集合住宅の分譲」、「商業施設や賃貸高層住宅、店舗付き共同分譲住宅を含む複合開発」、「既存樹木を保存しながらの開発」、「駅前商店街のしかけ」など数多くのユニークな工夫がされており、プランナーの側でテナントミックスなどまでの細かい計画も行いました。

これらはまさに「アーバン・デザイン」の様々なキーワードであり、一つのプロジェクトの中にこれだけ多くのアーバン・デザイン要素が詰まった住宅系プロジェクトは大変珍しいと思います。

当時、オイルショック後の経済の低迷が続く中で、ライプツタム浜田山は徹夜組数百名を集め、即日発売を果たしました（1977年5月）。もちろん30歳台、20歳台のメンバーを中心としたプロジェクトチームだったので、今思えば細かいデザイン処理などに若さゆえの未熟な部分も多く見受けられますが、逆に言えばまったくゼロの状態からライプツタム浜田山分譲までわずか1年数カ月でやっつけたことを思うと、この若さゆえに出来たのかなとも思います（今なら数年かかるのでは？）。

**四**半世紀を過ぎても低層集合住宅の好サンプルの一つに取り上げられるこのプロジェクトは、住民層によって徐々にその姿を深えられながら生き続けており、それからも生き続けていくことでしょう。ただその陰にはやはりプロである「策の場」プランナー、デザイナー連の努力があったという事を知って頂けたらと思います。

2000





都市環境デザイン会議10周年記念事業の一つとして、2000年11月に滋賀県大津市で行われた。その「JUDI大賞選考会」から早いもので約1年と4ヵ月が経過しようとしている。思い起こせば、10周年記念事業は全国の会員が1か所に集い、3つのイベントを同時に行うという大がかりな事業であった。

一つは、「会員が一同に集まり、船上で記念パーティを行う。二つ目は、初めの試みとして「優れた都市空間に対してJUDI賞を与える」というイベント、3つ目は関西ブロックのメイン企画「フォーラム」である。性格の異なる大イベントにもかかわらず、関西ブロック会員の献身的な協力や各ブロック幹事の努力、受賞関係者などの積極的な参加を得て、大いに盛り上がったように記憶している。

しかし、その一方で関東ブロックからの参加者は、事業運営に直接関わった会員以外の参加はほとんどなかった。その点からすると関東ブロックにとって、10周年記念事業が成功であったとは言いがたく、諸々の問題を抱えたまま終了したという感じがしている。参加者が少なかった問題の一

つに、記念事業の主旨や熱意の伝達不足、JUDI賞ブロック候補選考への参加システムの工夫や選考プロセスの公開など、運営委員側と会員との間のコミュニケーション不足があると考えている。私の立場においても、賞の事務局とブロック運営委員を兼務していたことで、賞事業の動きや内容について、いち早くブロックに情報を提供できたはずである。ところが、初めてのことで戸惑いや会議スケジュールのタイミングなどが噛み合わず、事前の広報や参加の呼びかけを行う余裕がないまま、慌ただしく大会本番に突入してしまったという反省が強く残っている。

ここに改めて、ブロックの選考経過を報告することは、運営委員の役割としてブロック会員に対し事後ではあるが、コミュニケーション不足を補う責務であると考えている。また、次にJUDI賞の準備を行う際に、参考として多少なりとも役立つのではないかと思い、筆をとった次第である。ただし、当時の少ない記録と記憶だけを頼りとした記述であるため、事実と若干の違いもあるかと思うが、お許しいただきたい。(担当 中井川正道)

#### 選考スケジュール 2000年

	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
□代表幹事会	12日	9日	7日	11日	19日	6日		
□JUDI賞事業委員会				○19日 (第一回選考会)		○30日 (第二回選考会)	●3日大賞選考	
		○会員に記念事業の概要を知らせる 各ブロック幹事にはJUDI賞公募						
□関東ブロック運営委員会	22日	19日	10日	14日	18日	16日	20日	
・アンケート		┌ アンケート発送6月5日						
		○—○締切6月20日 (実際は7月中旬)						
				(関東ブロックは8月10日まで延長)				
・パネル作成、修正				○—○				
				第1次パネル作成				
					○—○			
					第2次パネル作成			
						○—○		
						最終パネル作成		

#### 2000年当時の関東ブロック幹事および運営員 (順不同)

作山康 地福由起 峯岸久雄 加藤源 阿部貞司 中野恒明 中山義光 成瀬恵宏  
 植本俊介 須永倭子 土田旭 工藤安代 永松明子 黛卓郎 常光孝彦 宇野健一  
 伊藤洋 春谷尚 小浪博英 八木健一 倉本紀久子 山本博一 横川昇二  
 山口博喜 菅孝能 大森高樹 中井川正道

# 「都市環境デザイン特別講習会」のお知らせ

— udcとJUDIの共同開催 —

JUDI研修・研究委員会では、平成7年より毎年、(財)都市づくりパブリックデザインセンター(udc)と共同して「都市環境デザイン特別講習会」を開催しています。

本講習会は、地方公共団体及び民間のまちづくりや都市デザインに関与されている方々を対象として、都市環境デザインについての専門知識を体系的に習得していただくことを目的としています。毎回、JUDI会員から実績豊かな講師陣を招き、3日間にわたって講義と演習を行っています。これまで参加者からは「少人数で多くの専門家の先生方から直接指導を受けられ、大変有意義だった」「実際に手を動かして作業することが今後の実務に結びつく」など好評を得ています。

JUDI会員からの募集人数は5名と限定していただいておりますが、都市環境デザインに本格的に取り組みたいと考えておられる若手や新人の方々など、大いにこの機会をご活用下さい。

なお、プログラム、演習内容等については一部変更があるかもしれませんので、お申込の際に、ご確認いただけますようお願いいたします。

## ●講義内容

1. 都市環境デザインに関する事業制度論  
講師：(財)都市づくりパブリックデザインセンター専務理事 中島 浩氏
2. 市街地整備デザイン論  
講師：(株)都市計画設計研究所代表 南條 道昌氏
3. ランドスケープ・デザイン論  
講師：SLAスタジオオランダジャパン④取締役 川井 由寛氏
4. 公共空間のデザイン論  
講師：(株)7-pan・ハウス都市建築研究所代表 倉田 直道氏

## ●演習内容

- ・テーマ：中心市街地における低・未利用地の面整備等
- ・面整備基本構想演習及び部分空間設計演習
- ・演習課題地区(未定)
- ・講師：(株)都市計画設計研究所代表 南條 道昌氏 他

## 【開催日】

平成14年7月10日(水)～12日(金) 3日間  
※宿泊が必要な方は、お手数ですが各自で手配をお願いします。

## 【会場】

(財)都市づくりパブリックデザインセンター

## 【定員】

JUDI会員：5名(全体で15名程度)  
※定員となり次第、受付を締め切らせていただきます。

## 【受講料】

JUDI会員：30,000円  
※テキスト代、消費税等を含む  
※受講料は、講習会初日に会場受付で申し受けます。

## 【申込方法】

受講を希望される方は、以下の事項をご記入の上、FAX、E-mailまたは郵送で平成14年5月31日(金)までに下記事務局宛に申込下さい。  
・「都市環境デザイン特別講習会 参加申込」とご記入下さい。  
・勤務先、住所  
・参加者名、所属部署/役職、連絡先(電話、E-mail)

## 【申込、お問い合わせ先】

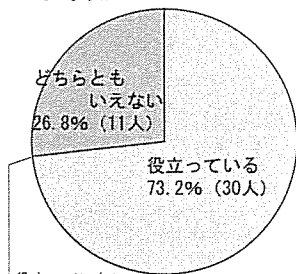
都市環境デザイン特別講習会 事務局  
〒102-0093  
東京都千代田区平河町1-6-8平河貝坂ビル2階  
(財)都市づくりパブリックデザインセンター  
担当：谷原  
TEL：03-3222-0981・FAX：03-3222-0986  
E-mail：info@udc.or.jp

## 【JUDI担当】

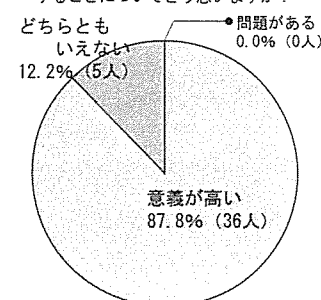
研修・研究委員 三原久徳

## ●「都市環境デザイン特別講習会・参加者アンケート調査」より

Q: 講習会に参加して、業務の円滑な推進やご自身の仕事の質のアップに役立っていますか?



Q: 自治体と民間企業の方が一緒に講習会を行うことについてどう思いますか?



・対象者：H7～H12までの参加者(70名)  
・回答率：58.6%(41人)  
・実施期間：H13年8月23日～9月7日

## 【過年度講師陣】

開催期日	講義：講師	演習：課題地区及び講師
平成13年 11.26～11.28	(株)都市環境研究所代表 土田 旭 (株)7-pan・ハウス都市建築研究所代表 倉田 直道 SLAスタジオオランダジャパン取締役 川井 由寛	課題地区：福岡県北九州市大里本町地区 講師：(株)都市環境研究所代表 土田 旭 (株)都市環境研究所 作山 康
平成12年 10.16～10.18	(株)都市環境研究所代表 土田 旭 (株)7-pan・ハウス都市設計研究所代表 望月 真一 SLAスタジオオランダジャパン取締役 川井 由寛	課題地区：広島県東広島市JR西条駅周辺地区 講師：(株)都市環境研究所代表 土田 旭 (株)都市環境研究所 作山 康
平成11年 10.27～10.29	(株)都市環境研究所代表 土田 旭 (株)7-pan・ハウス都市設計研究所代表 望月 真一 環境デザイン研究所所長 佐々木葉二	課題地区：東京都板橋区大山地区 講師：(株)都市環境研究所代表 土田 旭 (株)都市環境研究所 福永 秀歳 (株)都市環境研究所 作山 康
平成10年 10.28～10.30	(株)日本都市総合研究所所長 加藤 源 (株)7-pan・ハウス都市設計研究所代表 望月 真一 環境デザイン研究所所長 佐々木葉二	課題地区：新潟県上越市JR高田駅前地区 講師：(株)日本都市総合研究所所長 加藤 源 (株)日本都市総合研究所 高見 公雄
平成9年 9.24～9.26	(株)日本都市総合研究所所長 加藤 源 (株)7-pan・ハウス総合計画事務所代表 中野 恒明 千葉工業大学助教授 宮城 俊作	課題地区：北海道石狩市花咲市街地区 講師：(株)日本都市総合研究所所長 加藤 源 (株)日本都市総合研究所 高見 公雄
平成8年 9.11～9.13	(株)日本都市総合研究所所長 加藤 源 (株)7-pan・ハウス総合計画事務所代表 中野 恒明 千葉工業大学助教授 宮城 俊作	課題地区：岩手県遠野市 講師：(株)日本都市総合研究所所長 加藤 源 (株)日本都市総合研究所 高見 公雄
平成7年 7.12～7.14	(株)都市環境研究所所長 土田 旭 (株)アトリエ74 佐々木 政雄 東京農大造園学科 藪茂 寿太郎 (株)日本都市総合研究所所長 加藤 源	課題地区：北海道旭川市旭川駅裏地区 講師：(株)日本都市総合研究所所長 加藤 源

## 1. 新会員の紹介

2000年9月1日～12月31日の入会者は下記の通りです。(入会順、敬称略)  
12月31日現在の会員数は、499名です。

氏名	勤務先
越知 昌賜	(株)パルコ
石見 茂夫	(株)景観システム
山本 勝也	(株)旭ダンケ東京営業所
永吉 哲郎	興建産業(株)
村中 晃	オーストラル・ブリック・カンパニー
尾辻 信宣	Glocal Vision

## 2. 退会者(2001年9月～12月)

池村明生、今泉恭一、大月勝義、片岡廣夫、寺岡啓明、友田修、永松明子、星山耕一、栢野俊明、松崎喬、山崎堯右、横井紘一、吉羽裕子、和田英雄(敬称略)

## 3. 住所変更等(敬称略)

氏名	変更内容(新)
安部 桂子	(有)ケイ建築設計 〒658-0081 神戸市東灘区田中町1-15-7 Tel. 078-412-1795 Fax078-412-1798
浦口 醇二	(株)かいアソシエイツ 〒160-0015 東京都新宿区大京町11-28-2 Tel & Faxは変更なし
葛西紀巳子	(有)色彩環境計画室 〒125-0062 東京都葛飾区青戸4-4-9 Tel. & Fax. 03-3603-3898
川俣 雅秋	(株)栃木都市計画センター 〒320-0055 宇都宮市下戸祭2-16-5 Tel. 028-621-3023 Fax028-621-6908
藤井経三郎	(株)リップ・アソシエーツ 〒104-0031 東京都中央区京橋2-11-3 服部ビル402 Tel. 03-3535-2103 Fax03-3535-2104
若松 信行	(株)若松六本木設計 〒020-0834 盛岡市永井22-48-3

## 4. ホームページについて

JUDIホームページ <http://www.judi.gr.jp>  
会員ページには、名簿・フォーラム・会員からのお知らせ・著作物データベース等があります。会員ページへのアクセスコードは事務局(judi@japan.email.ne.jp)にお問い合わせ下さい。

## ■学生会員・準会員募集のお知らせ

JUDIでは、平成13年11月より、これまでの会員(正会員)に加えて、学生会員および準会員を募集することになりました。

都市環境デザインに興味をお持ちの方は、お問い合わせ下さい。

また、会員の活動は、全国9つのブロックを主体に行っています。地方の方も是非ご入会下さい。

各会員の資格要件は、以下のとおりです。

## 1. 学生会員

- ・特にありません。但し修士課程迄。
- ・会費5,000円/年(今年度に限り2,500円)

## 2. 準会員

- ・大学、大学院を卒業、修了後5年未満の方
- ・会費10,000円/年(今年度に限り5,000円)
- ・入会預り金10,000円(準会員から正会員へ転格される場合は、入会預り金をさらに10,000円納付頂きます)

## 3. 正会員

- ・都市環境デザインに関連する職業における実務経験が5年以上の方
- ・会費20,000円/年
- ・入会預り金20,000円
- \*入会預り金は退会時にご返却致します。

## お問い合わせ先

都市環境デザイン会議 事務局

F a x : 0 3 - 3 8 1 2 - 6 8 2 8

E m a i l : judi@japan.email.ne.jp

\*入会申込書は各ブロック幹事が保管しています。

## 今後のJUDI行事予定

### ■JUDI学生セミナー（研修・研究委員会主催）

4月20日（土）13：30～、横浜開港記念館

### ■第12期定例総会

7月13日（土）午前、東京・天王洲アイル

### ■モニターメッセ（事業委員会主催）

7月13日（土）午後、東京・天王洲アイル

### ■関西ブロック月例セミナー

4月 第10回デザインフォーラム・関西

5月 第11回デザインフォーラム関西に向けて

6月 「土木をめざす学生諸君へ」

<http://web.kyoto-inet.or.jp/org/gakugei/judi/index.htm>

### 広報・出版委員会

澤木 俊岡	石崎 均
土田 旭	伊藤 光造
近田 玲子	清水 泰博
菅 孝能	河本 一行
中嶋 猛夫	森川 稔
櫻井 淳	横山あおい
松村みち子	吉田 慎悟
白濱 力	作山 康